

THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION

いい人・いい音

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

第27号

2022年1月4日発行

発行：明治安田クオリティオブライフ文化財団
 編集：専務理事・事務局長 壁谷章可
 住所：〒163-0633
 東京都新宿区西新宿1-25-1
 TEL:03-3349-6194
 FAX:03-3345-6388
<https://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp>

30年を振り返って



財団設立30周年、誠におめでとう
 ございます。当初から選考委員を務
 めた一人として、ご同慶の至りに存
 じます。この間に育った多くの方々
 が、内外で目覚ましい活躍を繰り広
 げておられる姿を見るにつけ、心か
 ら嬉しくそして誇りに思っておりま
 す。我が国には各種の音楽活動支援
 事業が見られますが、当財団の海外
 研修助成は、それらの中で最もレベ
 ルの高いものの一つという評価が定
 まっているやに聞くことがあり、心
 強い限りです。

順調に歩んできたこの事業の中で
 「海外音楽コンクール助成」は
 2003年度以降中止になりました

た。この間に社会情勢が大きく様変
 わりしたからです。夏休みにちよつ
 と海外の講習会に行つて来たなど
 という学生が何人も現れたりして、外
 国に出かけるのがそれほど難しいこ
 とではなくなったので、長期間の留
 学支援のみに注力することにしたか
 らです。

実際、留学生応募者にも、海外滞
 在の経験者が増えていきます。この制
 度が始まった頃は、財団などからの
 支援を受けて初めて外国へ行けると
 というケースも多く、選考の過程で
 は、初めての人を優先する向きもあ
 りました。しかしそれが高じると、
 より優れた人材が、海外経験がある
 という理由で選考から外れる結果を
 招き、全体のレベルを高く保ち続け
 るのには不利になりかねないので、
 最近では、応募者の留学経験の有無を
 それ程大きくは考慮に入れない傾向
 が選考委員の共通認識となつていま
 す。近頃の助成決定
 者の中には、留学を継続するために
 申し込む人も多くなつています。

音楽評論家

丹羽 正明

(当財団理事・音楽分野選考委員長)

ところで、現在、留学生の専攻分
 野は演奏実技に限られ、「声楽」「ピ
 アノ」「弦楽器」「管・打楽器」の4
 部門になっていきます。「作曲」部門は
 ありませんが、「日本音楽コンク
 ル作曲部門」の最優秀入賞者に「明
 治安田賞」を寄託する形でそれはカ
 バーされています。しかし、音楽の
 専攻分野にはもう一つ「音楽学」が
 あります。「音楽学科」とか「楽理
 科」というコースが多くの音楽大学
 に置かれているのはそのためです。
 「実技」と学問的研究を目指す「音楽
 学」とでは実態がやや異なる面もあ
 りますが、30周年を機に、この分野
 が更に加われば、当音楽学生支援制
 度は正に完璧な姿になるものと期待
 出来ます。なお、国内の音楽大学の
 学生を対象とした奨学援助に関して
 も、これまで「音楽学」は対象外で
 したが、2022年度から含めるこ
 とになりました。

最後になりましたが、本事業の今
 後一層のご発展をお祈り致します。

「海外音楽研修生費用助成」の

2022年度申込受付を開始

当財団は、1991年6月の設立以来、「クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成」を目的として海外音楽研修や海外音楽コンクール参加のための費用の助成を行ってきました。過去31年間の助成対象者数は、合計208名です。

2022年度においても、「海外音楽研修生費用」の助成希望者を公募いたしますので、助成を希望される方は、主な音楽大学や音楽指導者宛に送付した「申込要領」または当財団のホームページをご覧ください。4月8日（金）までにお申し込み下さい。

助成の趣旨等

1. 助成の趣旨

わが国のクラシック音楽文化の向上のため、国際的

音楽家を目指して研鑽中の若手音楽家に対し、海外、特に欧米への留学に必要な費用の助成を行います。

2. 助成対象

海外の教育機関等に留学し、技術を練磨するとともに、その実体験を通じてさらに研鑽を深めることを志す方。（対象とする専門分野は、声楽・器楽）

- ・ 大学卒業（予定）者および大学院在籍者・修了（予定）者。なお、高等学校卒業（予定）者も可とする。
- ・ 声楽は1989年9月1日以降、器楽は1994年9月1日以降に生まれた方
- ・ 海外留学についての計画と目標が明確である方
- ・ 2022年から2023年12月末までに申込書に記載された教育機関等に入学が可能な方

- ・ 研修目標の達成に必要な語学力を有する方
- ※ 既に海外に留学中の方も対象になります。

3. 助成対象人員

- ・ 4名程度

4. 助成金額

- ・ 年額200万円

- ・ 助成期間は原則2年

申込書類等

1. 申込書

- ・ 所定用紙による。

2. 推薦書（二通）

- ・ 2名の方の推薦が必要。

- ・ 推薦書には、次の項目を必ず記入のこと。①あて先（当財団名）、②被推薦者（応募者）の氏名、③推薦理由、④作成日（3ヶ月以内）、⑤推薦者本人の署名

3. 映像資料

- ・ 本人の演奏を収録したDVDを提出のこと。（ピアノおよび打楽器については楽曲の指定あり、詳細は申込要領にて確認のこと）

- ・ 2021年7月以降に収録された演奏であること。また、カメラアングルは

固定し、以下に留意すること。

声楽…演奏者の顔と上半身が明確に映る角度

ピアノ…演奏者の顔と手元が明確に映る角度

弦楽器…演奏者の顔と手元、弓を含む楽器全体が明確に映る角度

管楽器…演奏者の顔と手元、楽器全体が明確に映る角度

打楽器…（管楽器に同じ）

その他…オルガンはペダル操作も映る角度

- ・ 映像と音声は同時に収録し、特に音質には留意すること。
- ・ 映像資料（DVD）は、複数の曲目の場合は、各曲・楽章を別々に分けて収録することは構わないが、収録は同じ会場（場所）かつ同じ日に収録し、DVD1枚にまとめること。
- ・ 演奏曲目の構造に応じて、その内容を申込書Ⅲ「2. 曲目と楽曲構造の内容」に経過時間を含めて必ず

記載すること。

日程

1. 申込期限

- ・ 4月8日（金）必着

- ・ 書類および資料は簡易書便等（配達確認が可能な方法）による送付を原則とします。

2. 選考日程

- ・ 第一次選考（書類・録音資料審査）は4月下旬
- ・ 第二次選考（第一次選考通過者に対する実技および面接）は5月20日（金）

【開催地 東京・新宿】

3. 結果発表

- ・ 6月上旬予定

選考方法

当財団の選考委員会で厳正に審査の上、助成候補者を選出し、その後、理事会の承認を経て助成対象者が決定されます。

詳細については、「申込要領」または当財団のホームページ

（www.meijiyasuda-gol-bunka.or.jp）を参照下さい。

海外音楽研修生レポート

「検査と共に乗り切った演奏活動」



(ベルチャッハでのリーダー
アーベントにて)

(20年度助成・声楽)
櫻井 愛子
(留学先…ウィーン国立音楽大学)

学校のプロジェクトとして、《ナクソス島のアリアドネ》にエコー役として出演しましたが、その道のりは厳しいものでした。実は3月中旬に、同じ大学内の別

のプロジェクトからクラスターが発生し、大学は閉鎖され、そのままイースター休暇が明けると4月中旬まで学校に一切立ち入ることは出来ませんでした。その間勿論稽古は出来ず漸く4月中旬から再開しましたが、陰性証明は抗原迅速検査の場合24時間、PCRテストの場合48時間以内のものしか認められないことになりました。再開後毎日稽古があったため、毎日鼻に綿棒を入れられる生活が始まりました。「迅速検査」というだけあり15分後に結果が出る便利さはありましたが、毎日するにはやはりある程度負担がありました。「Alles surgeht! (みんなどうがしよう!)」という、家で検体を採取して郵送すると結果がデータで送られてくるようなPCRCR検査も学校の方で手配してくれたので月8回はPCR検査も受けま

した。検査費は保険適用で無料でした。対策の甲斐あってこのプロジェクトが新規感染者を出すことなく、無観客での配信という形で5月に無事終演した裏で、同じ5月、長期的に参加に向けて準備をしていたパツハ国際コンクールが、1年間の延期の末7月の開催を断念したという連絡を受け取りました。非常に残念でしたが、そのエネルギーを大量のレパトリリーが要求される大学の修士試験に注ぎ込みました。そして6月末に無事に修了し7月はコンクール中止のため時間が出来たので、オーストリア各地の音楽祭に足を運びました。8月には、2019年に第2位を受賞したブラームス国際コンクールの審査員の方からのご依頼で、オーストリアのベルチャッハでエグナー・トリオの皆様とリーダーアーベントをさせていただきますいただきました。会場となった、かつてブラームスも滞在していた元中世の貴族の館のホテルは特別な趣があり、そこで演奏できたのは一生の思い出になりました。

「めげない心」



(ブッチーニオペラフェスティバル
アカデミーでのソプラノ歌手
レナータ・スコットの
マスタークラスにて)

(20年度助成・声楽)
吉田 一貴
(留学先…パルマ音楽院
ブッチーニ・ポイント)

海外では日本の様に規則正しく時間通りになど、うまくいかない事が沢山あります。そこで大切な事はめげない心です。この事はイタリアに留学し、より強く感じております。

私がイタリアへ留学した頃は、何をすることも証明書が必要で、外出の規制もさ

れていて、滞在許可証や納税者番号を取得するだけでもかなりの時間を要しました。

イタリアの事務所はなかなか対応が遅く、メールも何日も返信を待ち、受付で1・2時間待つなど、様々な困難が待ち受けています。ですがここでめげてはいけません。メールが返ってこなければ、何度も送り、受付で待たされようものなら、何度も受付の人に話して早くしてもらおう様に頼む、そうすると相手が折れてくれてスムーズに事が進むことがあります。このめげない心は音楽も同じだと思えます。

私はこのコロナ禍で、行われたブッチーニオペラフェスティバルアカデミーのオーディションに挑戦し、合格しました。アカデミー中は一日も休まず出席して、アカデミーの仲間と楽しみながら日々、音楽に没頭し、レッスンを受け、様々な演奏会に出演させて頂きました。レッスンではうまくいかない事がなん度もありましたが、その度に先生方に質問し練習していました。それを連日行っていると、

先生方から「練習し過ぎだから、少しは休みなさい」とお叱りを受けるほどでした。ですが、そのめげずに繰り返し練習する私を見た後、キヤステイニング担当の先生がプッチーニオペラフェスティバルのトゥーランドットの皇帝役へ推薦して頂き、第76回プッチーニオペラフェスティバルでイタリアデビューを果たしました。

初のイタリアの劇場でヨーロッパで活躍している方々と同じ舞台に立ちオペラに出演した事は、私の一生の宝物で、この時の舞台上から見た景色は決して忘れることが出来ません。

現在では、コロナウイルスも落ち着きを見せ、法律も変わり劇場が開きコンサートやオーケストラも行われております。このチャンスを生かす為に、コンサートやオーケストラで歌わなければならない曲を歌の先生と自らの声を磨き、コレペイトールの先生と曲の歌い回しや歌い手のキャラクターなどの解釈を構築し、これからも何事にもめげずに挑戦し続けたいと思います。

「理不尽さを乗り越えて…」



(イタリアのコンクールの帰りにミラノのドゥオモの前で)

(20年度助成・ピアノ)
横山 瑠佳
(留学先・ミュンヘン音楽・演劇大学)

2019年9月、長年の希望であったドイツ留学に期待や不安を抱きつつ、これから始まる新しい生活に心躍らせて渡航準備をしていたことを鮮明に覚えています。まさか留学期間のほとんどがこのような世界状況になるとは全く思いもせず…

留学生活の目的として、音楽の勉強はもちろんのこと、日々の生活の中で日本とヨーロッパの文化の違い

を少しでも感じ取ることができたらと考えていました。郷に入っては郷に従え精神で臨んだドイツ生活ですが、コロナ禍ということもあり、皆敏感になっていたのが関係していたのかもしれないですが、日本での常識が全く通じなく頭を悩ませる場面が多くありました。

ビザ関連では、全て書類等準備したにも関わらず、役所の担当する人によって毎回言われることが違い、何度も足を運ばないといけなくなったりと、練習室の予約をしていたにも関わらず、今はその部屋は使えないと理不尽に2〜3時間待たされることも度々あり、心がげげそうになったことが沢山ありました。

その中で1番印象に残った事件？は、ある日修理業者の方が突然部屋にやってきて、水漏れがあるので確認させて欲しいと言われ、壁に大きな穴を空けた後、次の修理日も決めず、そのままの状態にして帰って行ったことです。いつまで経っても音沙汰が来ないまま、講習会に参加するため1週間程留守にしている間に、勝手に部屋に入られ、壁を

直してあった時には、啞然としてしまいました。他にも数えきれないほど、日本では起こり得ない事が沢山ありましたが、様々な珍体験や、理不尽のおかげで、多少のトラブルには動じない精神力を身につけられ、より逞しくなる事が出来たのは留学の成果だと思います。

「人の温かさに触れながら…」



(学校の庭は自然豊かで心地良い)
(20年度助成・ピアノ)
黒田 哲平
(留学先・デトモルト音楽大学)

早いもので憧れの留学生活が始まってからもう一年が経ちました。音楽に没頭出来る毎日を本当に幸せに思っております。

コロナウイルスの真つ只中に始めた留学は、何かと苦勞も多かったように思います。入試も変則的で、また実際の渡航にあたっては特別な書類を揃える必要もあり、慣れないドイツ語で学校や連邦警察、大使館：などと遣り取りをした記憶があります。あの時期に留学を始めることが如何に特別なことだったかはつきり自覚した出来事があります。出発の朝、成田空港に着くと、普段は人で溢れ返っている出発ロビーが閑散として、乗客は一人もいなかったのです。すると5人くらいの職員の方がやって来て対応をしてくださりました。いざ搭乗するとやはり7人くらいしか乗客はおらず、まるで貸し切りのようでした。いよいよ到着が近付くと、CAさんが2人で、乗客一人ひとりに5分くらいずつ挨拶に来るではありませんか！ワクワクも行き届いていない時期の渡航だから、みんな何かしら特別な思いを抱いているのだらうなと思っていると僕の番が来ました。「留学は長い間の憧れだったんです」と言うと、温かく励ましてくださったこ

とが忘れられませんか。

そうして始まった生活ですが、様々な街へ旅行したり、学校のオーケストラと協奏曲を弾いたり、オーストリアやポーランドで音楽祭を聴いたり、マスタークラスに参加しに行ったりと、楽しい思い出は尽きません。特に、秋に行われたブラームス国際コンクールで3位を頂けたことは、嬉しい出来事です。ビデオ審査と3つのラウンドを経て、ファイナルではオーケストラとブラームスの協奏曲第1番を演奏でき、感無量でした。終演後、多くの方から温かい言葉を頂き、大好きな音楽と、それを演奏できる素晴らしい機会に感謝せずにはいられませんでした。



「今できることを」



(修士課程卒業リサイタル後に Prof.Christoph Poppen、Prof. Lena Neudauer 両氏と。)

(20年度助成・ヴァイオリ)
内尾 文香
(留学先・ミュンヘン音楽・演劇大学)

貴財団にご支援いただき、厳しいコロナ禍ではありましたが落ち着いて勉強に向き合えた1年になりました。どうもありがとうございます。ドイツ・ミュンヘンにて留学生活を始めて丸2年が経過し、ドイツ生活に慣れ、様々な可能性が広がりに感じます。コロナがワクチンにより少し落ち着いてきた今日この頃、音楽

を通じて新たな場所・環境での出会いが増え、今までより視野を広げて生活を送ることができています。ミュンヘン音楽・演劇大学での修士課程を最高点で修了し、引き続き同じくミュンヘン音大で Prof. Christoph Poppen と Prof. Lena Neudauer 両氏のもとでマイスタークラスでの課程に在籍し勉強を続けます。さらに私は新たな一歩を踏み出すことになりました。

オーディションを経てバイエルン放送響でアカデミー生として2021年9月より2年間学べることになりました。アカデミーではオーケストラでの演奏だけでなく個人レッスンやメンタルコーチング、アカデミー生での室内楽コンサート、ヨガなど音楽家に必要なカリキュラムが全て組み込まれています。優しい温かな音色を持つこのオーケストラの中で様々なことを吸収でき、切磋琢磨しあえる同年代の素晴らしいアカデミー生の仲間たちに恵まれ、ともにビールを飲み、愉快で充実した日々を過ごしています。

コロナ禍での留学生活、

一時はどうなるか不安な日々を過ごし暗く長い闇の中をさまようように感じたりも多々ありましたが、今こうして始まったアカデミーでの新生活は、コロナ当時を2倍3倍の速度で取り返し、新しい発見やひらめきが多く自分の中に蓄積されていくことが実感されます。この素晴らしい経験ができている感謝を胸に、これからも日々大切に過ごしていきます。

(追伸)
その後、わずかな間に状況は一変し、2021年11月現在ドイツでは急激に感染が再拡大し、ワクチン接種していない人への入場規制など、半ロックダウン状態が再び見受けられます。アカデミーに在籍してまだ2ヶ月。今後再び厳しい制限が加えられることなく、音楽が鳴り続ける日々であるように祈りながら、私もやるべきことを日々精進していきたいと思っています。



日本音楽コンクール

明治安田賞受賞者(作曲部門)

日本音楽コンクールの作曲部門は、作曲家の方々がデビューの足掛かりとしてきた重要な部門ですが、当財団は若手作曲家の励みとなるよう同部門の最優秀者に対し「明治安田賞」(賞金50万円)を寄託し、次の方々を受賞されています。

91年度 (第60回)	山洞 智
92年度 (第61回)	伊佐治 直
93年度 (第62回)	藤満 健
94年度 (第63回)	原田 敬子
95年度 (第64回)	伊佐治 直
96年度 (第65回)	望月 京
97年度 (第66回)	若林 千春
98年度 (第67回)	なかにし あかね
99年度 (第68回)	大場 陽子
00年度 (第69回)	三浦 則子
01年度 (第70回)	名野 貴史
02年度 (第71回)	朴 銀荷
03年度 (第72回)	中村 寛
04年度 (第73回)	宮澤 一人
05年度 (第74回)	横島 浩
06年度 (第75回)	篠田 昌伸
07年度 (第76回)	山根明季子
08年度 (第77回)	稲森安太己
09年度 (第78回)	中辻小百合
10年度 (第79回)	三宅 悠太
11年度 (第80回)	魚路 恭子
12年度 (第81回)	網守 加恵
13年度 (第82回)	杉本 友樹
14年度 (第83回)	東井 響
15年度 (第84回)	白岩 俊介
16年度 (第85回)	久保 優拓
17年度 (第86回)	井上 哲朗
18年度 (第87回)	松本 真結
19年度 (第88回)	波立 祐子
20年度 (第89回)	福丸 光詩



助成対象者の皆さんから寄せられたお便りを助成年度、専攻部門の順に掲載しました。

1991年度助成

江澤 聖子 (ピアノ)

コロナ禍のこの2年間、音大のレッスンは早い時期からの対面となりましたが、留学をしている方には色々としんどい現実だったと思います。これから予定の方は、入試日程が音大HPと事務局からの情報とで異なっているのではないかと、住宅の入居条件に問題はないか等の基本的な事柄の確認に留意なさり、無事に渡航される事を願っております。

鈴木 優子 (パーカッション)

ドイツでは長期間ロックダウンが続いていたため、2020年に公開した演劇作品(音楽を担当しています)の上演の機会が大幅に減ってしまいました。そのため昨年の活動は、横浜の音楽教室での指導が中心となりました。

発表会は観客を少人数に制限し、後日オンライン上で演奏を公開する方法で行いましたが、久しぶりに舞台上で演奏できる喜びを、生徒の皆さんやご家族と分かちあうことができ、とても嬉しく思いました。

1992年度助成

田中 晶子 (ヴァイオリン)

サロンや音楽ホールでのコンサートも徐々に無事に開催する事が出来安堵しています。コロナをきっかけに沢山の気付きがあり、音楽の偉大さを再確認する機会でもありました。日本音楽コンクールの審査の際には、若い才能が素晴らしく進化していると実感。自分の感性を大切に、音楽に対し、いつも真摯な心で頑張りました。

梅津 千恵子 (パーカッション)

毎秋の寄稿では、初心に還り身の引き締まる時を頂いております。貴財団助成事業30周年おめでとうございます。私にとっても約30年となる演奏活動期間、国内外オーケストラ経験とともに弛むことなくソロ・室内楽活動を継続し、イタリアから帰国後始めたプロデュース「パーカッション

メッセージ大地の響宴」の第10回目を、今春3月15日に東京文化会館小ホールにて、『10年メモリアル三木稔の世界&委嘱初演ティンパニとマリナーの魅力』公演予定です。

1993年度助成

小林 幸子 (ヴァイオリン)

齋藤 千尋 (チェロ)

(注:両氏はロータス・カルテットとして演奏活動中・シユツツトガルト在)

助成事業30周年おめでとうございます。素晴らしい助成事業に数多くの音楽家が支えられてきました。本当にありがとうございます。コロナ禍で過ごさなければならなくなつてからそろそろ2年が経とうとしています。今年に入ってから演奏会自体を録画してオンライン上で公開したり、聴衆の数を少なくしたり、演奏会の時間を短くしたり、これまでと違ったやり方で演奏会が少しずつ復活してきています。早くコロナ禍を乗り越え、通常の演奏会が催されるようになると願っています。いつになるでしょうか。このコロナ禍の間に普段できないことをやるには都合が良いですが、演奏会で演奏する側としても聴衆としても その場

1994年度助成

樋口 あゆ子 (ピアノ)

に居合わせた人達と音楽を共有する時間の素晴らしさを重く実感しています。今後、この演奏会形式が変わってしまわないで欲しいと願っています。

皆さまいかがお過ごしでしょうか。コロナ禍で、私が居住している東京都は4回の緊急事態宣言発令により、コンサートの活動は、激変いたしました。ですが、昨年夏よりほそほそと入場制限をかけながら、コンサートの公演活動も再開させて頂けるようになりました。その他の音楽活動の場は、入場制限実施の会場での複数のコンクール審査、オンライン審査、自分の11年目にはいりました550回放送中のラジオ番組FM横浜(土) 18時45分〜19時の「ピアノワイナリー」響きのクラシック」の放送です。コンサートの活動方法が、会場とオンラインとの両建てで行われる環境下で、「生とスピーカーからの音は、聞き手には全く違う音が届けられます。」生音には、音の風、音が包み込まれる内包感で聞き手は満たされますが、スピーカーの音はコント

ロールされた整音です。ですので、クラシックの音楽家自身がそれに対応しながらも、自分が目標とする音楽の本質をどのように表現し、生き抜いていくかを、徹底的に考えていかなければならない苦境に立たされています。是非、皆さんからのご意見をお聞きたいな、と思います。私のスケジュールは私HP <http://ayuko-higuchi.music.cocacn.jp/>をご覧ください。公演場所の近くにお越しの際は、是非、公演にお立ち寄り頂けましたら幸いです。

マリア・アヤ・アシユリー (ヴァイオリン・ボン在)

音楽活動や文化的な催し物が制約を受けて2年が過ぎようとしており、この頃は締め付けに対する反発や、「普通の生活」を願う声ドイツでも増えてきているような気がします。久し振りに、ロマン・ロランの「ジャン・クリストフ」(出だしの街は、私の住むボンのようなです。)を読み出して、人間の芸術や自由への憧れは抑えきれぬものではないことを実感しています。私のオケ(ケルン放送響)はずっとオンラインで演奏を続けることができ幸せでしたが、日本ツアーなどはいつ実現できるかわかりません。母を訪ねて日本に帰ることもままな

らない今、こちらで出来る事を日々大切に生きていきたいと思っています。

横山 奈加子

(ヴァイオリン)

近況報告をさせて頂きました。コロナ禍も長引き、ステージに立つ機会はめっきり減ってしまいました。子供を教える仕事は以前より増し、師匠である江藤俊哉メソッドを出来るだけ正確に伝えられるよう努めています。演奏の方は近いうちに、貴財団でお世話になり臨んだチャイコフスキーコンクールの時に、サポート頂いたピアニスト佐々木京子さんと、ブラームスのヴァイオリンソナタ全曲の録音を考えております。

神田 寛明

(フルート)

コロナ禍における音楽活動は、ネット配信がもはや当たり前となり、シヨパンコンクールの興奮をリアルタイムに全世界の家庭で視聴できたことは、これからのコンクールのあり方として衝撃を覚えました。2021年に開催された第10回神戸国際フルートコンクールは、これまでの2倍にあたる483名もの参加者から演奏動画が送られてきました。その後入国制限が続く中、予定を変更し無伴奏作

品が課題の第1次審査までをオンライン審査で行いました。通過した26名が2022年3月に神戸市に集い「対面」での審査に挑む予定です。すべてをオンライン配信します。最高峰のエンターテインメントとして多くの方々にお楽しみ頂きたいと思います。

1995年度助成

石橋 幸子

(ヴァイオリン・チェリッヒ在)

スイス・チェリッヒ在住のヴァイオリン奏者の石橋幸子です。こちらヨーロッパでは2021年の夏以降ほぼ平常の日常生活をとり戻し、コンサートも通常通り開催される様になりました。既に結成10年を迎えた弦楽三重奏トリオ・オレアーデのコンサートも演奏会が徐々に再開され、また在籍しているトーンハレ・チューリッヒ交響楽団では常任指揮者にパーヴォ・ヤルヴィー氏と共に数々のコンサートや録音を頻繁に行なっており、とても充実した時間を過ごしています。また2021年夏にはピアニストの根岸由起氏と共に、貴志康一氏(1909-1937)のヴァイオリンとピアノのソナタと小品集(初演を含む)を録音しました。スイスとドイツに留学経験のある貴

志氏の作品は、ヨーロッパの色彩に染まりつつも、郷愁を感じて日本に居る家族への想いの心が作品の中の至る所で深く表現されている様に感じられました。また独特の悲しさを内に秘めたそのフレーズは一度聴くと忘れられず、私自身が故郷や家族を想う気持ちと幾度も重なりました。録音時に使用したストラディバリウス キング・ジョージは、100年前に貴志康一氏自身が所有していた楽器で、このストラディバリウスで彼の作品を演奏できたことも感無量でした。2022年には日本でもCDが発売予定ですが、一度お聴きいただけですと大変嬉しく思います。また今年7月末からは日本でのコンサートも企画しております。貴志康一作品を含むプログラムで構成したいと思っておりますので、コンサートでお会いできれば大変嬉しいです。今年皆様より安心して平穩に過ごせます様に、そしてその側で素敵な音楽に包まれます様に心からお祈り申し上げます。石橋幸子 (www.trio-oreade.ch)

大森 潤子

(ヴァイオリン)

財団の助成事業30周年、おめでとうございます。助成に

事でした。

志茂 美都世

(ヴァイオリン)

コロナ禍の影響は多岐に渡りますが、日常生活は少し落ちついてきたと思います。とはいえ、気軽にはヨーロッパへ渡航できない状況ですし、日本国内の移動も気楽ではないうですね。昨年はじっと耐えて忍んでいたのですが、今年が良い意味でフットワークの軽さを前向きに生かしていく1年にしたいと思います。充実の年になることを願っています。

玉井 菜採

(ヴァイオリン)

公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団30周年、おめでとうございます。そして、この長い間、若い音楽家への援助を続けてくださったことに、心より感謝申し上げます。私自身が、海外留学助成をいただいていたから、はや四半世紀経つことに、驚きを禁じえません。ついこの間のことのようにです。留学期間は、自分の中に、様々な経験や考え方を、自分が演奏していくうえで礎やアイデアを入れる、伸び縮みする「袋」のようなものを得るような時期だったのかもしれない。そして、いまだにその袋の中から、大事なものを再発見する

ことが多々あります。留学から帰り、演奏活動と、教職に身を投じてきましたが、その中でも諸先輩方から学ぶことばかりでした。しかし最近、ふと気が付くと、共演者の中で自分が最年長（！）というところが起るようになってきました。これからは若い方からもたくさん学びながら、変化しながら、歩みを続けていきたいと思えます。

神代 修
(トランペット)

非日常が続く状況の中、ふと同僚がC・クライバーのCDを貸してくれたので聴きました。瞬間、身体中に強烈なエネルギーが溢れ出しました。そして留学中、彼の生前最後となる演奏会を聴きにウィーンから旅行し、雷に打たれたような衝撃を受けた事を鮮明に思い出せました。貴財団のご支援により留学できた体験は音楽人としての私の財産です。



1996年度助成

磯 絵里子
(ヴァイオリン)

1昨年から世界を襲ったコロナ禍で、留学中の皆様も厳しい日々を送られたのではないのでしょうか？しかし、演奏会や活動の様式も2年の間に徐々に整ってきました。私たち音楽家に今できることは、やはり上質な音楽を皆様お届けする努力を続けていくことかと思えます。昨年はコロナ対策のもと、徐々に演奏の機会も増え、ソリストとしてブルッフのコンチェルトを弾いたり、ソロや「椿三重奏団」や「デュオ・プリマ」でのコンサート、学校訪問コンサート、宮崎音楽祭等での演奏活動ができました。2022年はギターリストの河野智美さんと新たに結成するデュオ・パッシオーネのCDデビュー、そして私のソロデビュー25周年を迎える年となります。25年の間、様々な機会を頂き演奏家として活動できたことを幸せに思うと同時に、節目の年にさらなるステップアップを目指していこうと決意を新たにしています。春にデュオのコンサート、秋には音楽仲間とのサポートを得て、25周年記念のコンサートを計画しています。11年続いているFMヨコハマの「磯 絵里子の

SEASIDE CLASSIC」も600回を重ねて、これからもクラシックのあれこれを発信してまいります。その他の演奏活動は下記HPで公開しております。

<https://erikois.jp>

安藤 裕子
(ヴァイオリン)

昨春秋、所属する紀尾井ホール室内管弦楽団、首席指揮者ライナー・ホーネック氏と、やっとの思いで共演が実現しました。感染症の拡大が懸念される中、リハーサル中にまで所在確認の電話がかかってくる始末。それでもホールスタッフが様々に対応してくださった結果、沢山の味わい、刺激を彼からうけながら演奏会を無事に終える事ができました。新しい刺激をお互い感じられるという意味で、国内外を問わず色々な場所や、演奏家と接している事が、自分にとって大きな財産なのだと言うことに、改めて気付かされたと共に、経験を糧に成長したい、と素直に思っているところです。



1997年度助成

泉 良平
(声楽)

約2年にわたるコロナの世界的流行。音楽界も辛い時期を過ごしました。しかし私は幸いなことに、2021年は日本オペラ協会「キジムナー時を翔ける」、藤原歌劇団「ジャンニススキキ」、京都上賀茂神社の世界初演オペラ「ヤマトタケル」、そして夏の兵庫にて1万4000人を動員した佐渡裕マエストロオペレッタ「メリー・ウイドウ」に参加しました。全ての公演がマスクにフェイスマスクという感染との戦いのリハールでした。大変幸運なことにひとりの感染者を出さず公演を終えました。今年こそ世界的にコロナが終息し、まさしく「芸術と舞台の年」として迎えられると心より願っております。

山崎 貴子
(ヴァイオリン)

2021年は、コロナ禍が長引いたことからのストレスを皆が感じた年ではなかったかと思えます。そんな中でも、基本的な対策はかなり分かって来て、音楽活動もだいぶ行える様になり、改めてその喜びを噛みしめた年でもありました。個人的には、バルトー

1998年度助成

豊嶋 起久子
(声楽)

1999年国際コンクールで1位を頂きその後再会し師事した、ウィーン国立歌劇場宮廷歌手クリスタ・ルードヴィツヒ先生が93歳でお亡くなりになった。晩年は携帯での連絡が増え、2020年セビーア国立ベオグラード歌劇場に招待を受けた時もアプリで指示指導をして下さった。2021年私の英文コラムを先生が読んでくれてとても喜んで下さり、最新の方は先生がバインスタインさんとイスラエルフィルで演奏したマラーでのテンポについて意見を交換、興味深い芸術の話や楽しい話が絶えない間柄だった。先生から届く携帯メッセージの最後に「あなたの母

より」と書いてあり、身に余る言葉を沢山頂き深く感謝している。その後、先生の息子さんから「僕の妹へ」と書かれたお手紙とお形見が送られて来た、それはかつてウィーンフィルが先生に贈ったシルバーの薔薇だった。

島田 真千子 (ヴァイオリン)

財団のご支援を頂きコンサートに参加し、その際のヨーロッパ旅をきっかけとしてドイツのデトモルト音大に留学してから、23年という月日が経ちました。昨年からは、演奏活動に加えて、京都堀川音楽高校と愛知県立芸術大学で教え始め、これまで自分が経験した全ての事が、指導に生きている事を痛感しております。自分自身が学生だった頃も、国内外のマスタークラスや様々な講習会や音楽祭、コンサートやオーディションなどに参加した事により、素晴らしい音楽家との出会いが広がり、様々な国を訪れ、道が繋がってきました。全ての体験、人々との出会いが、今の私の音楽活動や教育活動となっております。これまで機会をお与え下さいました方々には、感謝の念が絶えません。これから留学等される若い皆様、失敗も悩み事も、経験をされた事は全て未来の糧となり

ます。今は留学や海外への渡航が、難しい時期ではありませんが、それでも、出来る事たくさん、挑戦してください！今年も皆様にとりまして良い1年になりますように(祈)。

1999年度助成

田邊 織恵 (声楽)

左子真由美の詩による歌曲者「カテドラル」(楽譜集、CD付)の全曲録音に協力し、昨年夏に出版されました。美しい写真と詩と曲、歌とピアノが一体となった素敵な本となりました。Amazon等でも販売されており、youtubeでも数曲お聴きいただけます。コロナも少し落ち着き、コンサートやオペラ公演等も再開され、再び歌える喜びに感謝する日々です。

大谷 玲子 (ヴァイオリン)

2021年8月、尊敬する恩師のイーゴリ・オイストラフ先生が90歳で逝去されました。素晴らしい音楽家・愛情深く温かいお人柄で、1996年から6年近くブリュッセルに留学中に教わったこと全てが私の宝物です。レッスンを夜遅くまであり、帰りを心配していつも車で家まで送って下さった道中の小

2000年度助成

宮部 小牧 (声楽)

音楽は不要不急ではなく必要なもの、と自分にも言い聞かせるような思いで、コロナ禍においても教育を中心に活動を行なって参りました。子供たちにも体中に声を響かせて歌う喜び、共振する音楽を忘れてほしくないと強く願います。今年は演奏、教育活動と共に、地域の音楽活動のための組織作りを始めたいと考えています。

松原 広美 (声楽)

昨年は私にとって、忘れられない一年になりました。日本オペラ振興会の本公演に、1月藤原歌劇団『フィガロの結婚』、2月日本オペラ協会『キジムナー 時を翔ける』、4月『ジャンニ・スキッキ』と、立て続けに出演させて頂きました。中でも、主役の一人を演じた『キジムナー』は、第29回三菱UFJ信託音楽賞を受賞しました。そして、私の30年越の夢である『イル・トロヴァトーレ』アズチエーナ役を、目前に控えております。1月29日東京文化会館、2月5日愛知県芸術劇場の2公演に、出演させて頂きたく思います。師であり世界的メゾソプラ

田中 晶子 (ヴァイオリン)



NHK交響楽団に入団し、15年が経ちました。コロナで演奏活動も苦しい2年間でしたが、昨年10月にマエストロ・ブロムシュテットが来日し、緊張感と希望に満ちた充実した3週間になりました。

ノ、フィオレンツァ・コッツトト先生が、35年前に藤原歌劇団で演じ、1996年に外国人キャストで公演されて以来、26年ぶりに初めて日本人キャストで上演されます。師匠の後に、自分が演じる...と、オファーを受けたときは、身震いがしました。世界中で何百回も演じた師匠の足元にも及びませんが、少しでも彷彿していただけのようなアズチエーナを演じたいと思います。体調に気をつけて、今年も頑張ります。

上野 真理 (ヴァイオリン)

昨年は茅ヶ崎市民文化会館やさいたま芸術劇場でのコンサート、岐阜県と岩手県での滞在型アウトリーチ&コンサートを無事に終えることができました。また、参加させて頂いたキャラバンのオーケストラメンバーとして、沢山のホールに何うことができた止めるのは簡単だからと皆で知恵を出しあつて動かれています。予想以上の大変さにもかかわらず、人と人が連携し大きなことができていくところに、感動を覚えました。不器用な私が、貴財団のおかげで留学という機会を頂き、今はそれが背骨となって活動させて頂いております。

おこがましいですが、いつか誰かの役にたてるように、また勉強を続けていきたいと思っています。

神谷(ジラール) 未穂

(ヴァイオリン)

舞台上から拝見するお客様のマスク姿にも慣れ、ブラボーの掛け声は無くとも演奏出来る事への感謝に満ちた2021年、今年の2022年は音楽界にとってどんな年になるでしょうか。年女だった昨年は、千葉交響楽団の定期演奏会でメンデルスゾーンのコンチェルトのソリスト、デビュー20年を迎えた、磯絵里子との従姉妹ヴァイオリンデュオ『デュオプリマ』での演奏会、クラシックキャリアバんで若手優秀な音楽家とのオケのコンマス、仙台フィルでNHK音楽祭に出演させて頂く等、ソリスト、コンマス、室内楽と、様々な経験をさせて頂きました。2022年はソロデビュー25年の年になります。野平一郎さんとのドビュッシーのソナタ共演、半月以上に渡る仙台国際コンクール(ヴァイオリン部門担当)の伴奏はじめ、自分自身が楽しみな本番が続きます。ヨガ、食事管理、早寝早起き、そして笑う門には福来るで、健康&笑顔で良い年にしたいと思っています。皆様にごこか

お会い出来ません様に。

シユレイファー(遠藤) 弓子

(ハープ・ダラス在)

こちらアメリカでも日本同様、まだまだコロナ禍にあり、今シーズンも例年とは違った形態で音楽活動が行われております。それでも多くのオーケストラが活動を再開し、コンサートホールにお客様が来場できる様になりました。アメリカは州ごとに異なったコロナ対応がなされており、規則の厳しさもそれぞれ違います。規制のある中で活動ですが、演奏をする機会が増えましたことは、音楽家にとつて嬉しい限りです。私自身は9月から対面の授業が本格的に再開され、生徒達と画面を介さずに接することができるよう、プライベートの生徒達はまだオンラインでのレッスンを続けています。この様な状況の中、それでも若い世代は逞しく育っており、それぞれの夢を追いかける為に、学科と音楽の勉強を両立して頑張っている姿に、こちらも励まされる思いです。

2001年度助成

三上 亮

(ヴァイオリン)

昨秋は、初めての試みを行いました。海外旅行気分と音

楽を同時に味わえる世界遺産とクラシックのコラボレーションコンサートを開催し、品川プリンスホテルから生配信しました。弦楽アンサンブルのメンバー、技術スタッフにも恵まれ、クラウドファンディングも成功させて頂きました。沢山の方々にご賛同いただき心から感謝しています。

大石 将紀

(サクソフォン)

未だに思う様な音楽活動ができなかったり、海外との往來は難しさを感じますが、昨年は毎年参加させて頂いていた武生国際音楽祭が開催されたり、秋以降は再延期になっていたコンサートが開催されたり、様々なコンサートに出演させて頂いたなど充実した音楽活動ができました。不自由な日常を経験したことによって音楽活動、人とのコミュニケーションをより尊く感じ、新しい気分で望めたことは大変貴重な経験となりました。

2002年度助成

柳原 由香

(声楽・ベルリン在)

2021年の活動は拠点をドイツから日本に移し、8月にはドイツで活躍中のオペラ

演出家菅尾友さんの作品で、子供の為のオペラ「ゴルド」に出演。この作品は2012年オランダ初演以来、ヨーロッパの多くのオペラ劇場が公演している演目で、音楽&舞台を作り上げるのは、パークッション奏者とソプラノの2人だけ。ソプラノは、少年、母親、父親、語りの4役を演じ、歌もいくつかある上芝居の要素がたっぷりの作品で私にピッタリの作品だった。演出家と一緒に舞台を作るのは3作目で、お互いのアイデアを沢山出し、いい作品を作ることに集中できる稽古だった。そして公演1時間、子供だけでなく大人も一緒に音楽&舞台に入り込める素晴らしい作品の日本初演(同時に日本語訳初演)になり、多くのメディアから好評を頂いた。こうしたヨーロッパで認められている質の良い舞台芸術を日本の子供達にも届ける事が出来て非常に嬉しく思う。

2003年度助成

本田 智衣

(声楽・ドイツ在)

留学を終えて日本へ本帰国後、再びドイツで生活を始めて10年が経ち、昨年は私にとって大きな節目の1年となりました。健康と安全を第一に、徹底した飛沫感染対策をしながら歌っております。コロナ禍により自分と向き合う時間も増え、私事ですが当地で自動車教習所に通い、第1日目からいきなり路上デビューしました。ロックダウン中には筆記試験の猛勉強をし、二児の子育てに励む傍らなんとか免許証を取得しました。これまでの活動に加えて近年は教会音楽家としてミサで演奏をする機会も多く頂き、また聖歌隊をはじめ声楽団体等の歌唱指導にも携わることになりました。本年はアンサンブルでの共演でスタートの予定です。今後も人々との出会いを大切に、どんな時でも感謝の気持ちを忘れずに精進してまいります。

2004年度助成

富平 安希子

(声楽)

コロナの影響により1年延期になった東京二期会公演『ルル』(ルル役)は、昨年8





月に無事に幕を降ろすことが出来ました。罹患者数がピークの時期でしたので、何事もなく開催できるのか危ぶまれましたが、演出家、指揮者とも無事に来日することが出来、キャストも一人として欠けることなく、結果お客様にもご満足頂けたプロダクションとなりました。その他もコンサート等でお客様の前で演奏する機会を何度か持つことが出来たのは大変幸運なことでした。罹患者数は劇的に減ったもののキャンセルや延期のご連絡をいただくことはまだまだ多く、コロナ前のような状況に戻るにはまだまだ時間がかかるのだらうということを感じます。そのような中でもこの2月には東京二期会『影のない女』皇后役で出演の機会を頂いておりません。私にとりまして、新たな挑戦となるこの役を通して、より成長できるよう取り組んで参ります。

2005年度助成

白木 あい (声楽)

74歳という若さでグルベローヴァが亡くなったというニュースに衝撃を受けたながら、往年の彼女の録音を毎日聴いている。光輝く絹糸のような声、心の奥深くまで入り込んで来るようなピアノニッシモ：しかしどんな素晴らしい録音も、彼女の実演奏の響きには及ばない。つくづく芸術とはアナログだ、と痛感する。インターネットやSNSで、どんな情報も瞬時に手に入るようになった今、歌詞の意味は検索すればヒットするし、辞書でひと単語ずつ調べながら事をする学生は減ってしまった。我々が学生の頃にこんな便利な世の中だったらなあ：今の学生は恵まれているなあ：そんな風に思う事もあるが、やはり自分達が出てきた一見「遠回り」に見える努力は必要だったのだと思う。一つずつ調べたことは頭に確実に残り、時間をかけて向き合った過程は知らず知らずの内に、作品への理解や独創性を生み出す。コロナ禍の今、世界中をオンラインで結ぶ機会も増えた。名演奏家が録画をSNSに上げてくれる機会も山程ある。しかしやはり、若い学生の方々にはアナ

ログを大切にして欲しい。「遠回りが一番の近道」自分の手と頭を動かして楽譜に真摯に向き合い、自分の足を使って実際の響きを体感できる環境に身を置いて欲しいと願っている。

佐野 隆哉 (ピアノ)

2020年に本屋大賞を受賞した小説「そして、バトンは渡された」が2021年10月に映画化、公開され、その中で俳優・岡田健史さん演じる天才ピアノ少年役の演奏を担当しました。映画という普段接することのない分野からお声掛け頂き、貴重な機会を頂きました。2022年1月21日には東京文化会館でのリサイタルがあり、本業も頑張っております。

遠藤 真理 (チェロ)

昨年も引き続きコロナ禍ではありましたが、公演に際して沢山の温かい拍手に恵まれました。その拍手にだけ勇気づけられていたか、改めてお客様の入られたコンサートホールのありがたさに気づかされました。小編成だった1昨年から、徐々に大きな編成へ移り変わり、読響では日本初演なども続きました。音楽監督のセバスチャン・ヴァ

2006年度助成

江水 妙子 (声楽)

新型コロナウイルスによって演奏の機会が大幅に減りましたが、私の音楽教室の生徒様は逆に大幅に増加しました。ピアノ教室を運営されている方も同様に仰っていました。できる限りの感染対策を実施し、レッスンを続けて参りました。人には音楽が必要であると再確認しました。劇場で安全に音を楽しめる日が早く来るよう願っています。

佐藤 卓史 (ピアノ)

コロナ禍を機に生き方を考え直す中で、演奏では満たされなかつたものがあることを感じ、作曲に心と時間を割くようになりました。そんな活動の一環として、2台ピアノのための作品集がCD化されることとなり、少し気恥ずかしいような、ホットとしたような気分を味わっています。ライフワークのシューベルト全曲演奏シリーズは折り返し地点に到達、これから後半戦が始まります。

www.takashi-sato.jp



横坂 源 (チェロ)

昨年もコロナの影響を受けながらの生活となりましたが、海外演奏家の代役や、日本初演のチェロコンチェルトの機会等を頂く中で、次に取り組むためのテーマを見つけることができました。

今年もソロ活動に加えて、信頼するプレイヤー方との室内楽が控えており、ワクワクしています。また9月には久しぶりにドイツへ渡り、エルガーのチェロコンチェルトを演奏致します。留学先での出会いや勉強してきたことが現在も継続され、繋がりを保持して頂いていることに改めて感謝致します。

鈴木 真貴子 (ピアノ)

昨年は音楽や人の繋がりのあたたかさを感じながら、制約の多い生活の中でも新しい挑戦をしようと決め、私の博士号の研究テーマでもあり大好きな作曲家フランシス・プーランクのピアノ作品録音vol.1をリリースしました。今後もCD録音、コンサートとプーランクシリーズを続けていく予定です。留学時代に得た経験がどれほど貴重なものであったか、今改めて思います。音楽家としてできることを探しながら、新しい1年も挑戦と感謝を忘れず過ごしたいと思います。

2007年度助成

中村 恵理 (声楽・ミュンヘン在)

ドイツでは再度感染が広がり、シーズン始めには満場だった劇場も再び公演中止などが聞かれるようになりました(2021年11月時点)。1日も早く皆が安心して劇場へ足を運べる日が戻って来るよう願って止みません。今年にはカナダとイギリスでオペラ公演、日本でもコンサート等に出演する予定です。どの公演も先ずは無事に上演される事を祈りつつ、心ある音楽をお届けできるよう努めて参ります。

2008年度助成

クリステン・木実・ウィットマー (声楽・オランダ在)

コロナ禍の影響が繰り返され波打つ中、皆さんも無事に過ごされてますか。オランダでは冬の到来に先立って感染者数が過去最大数に上り、夏にやっと再開した演奏会の予定は再びキャンセルが相次いでます。誰もが大変なこのご時世、フリーランスとして当然厳しい状況ですが、このコロナ禍の只中で学生生活の始まった人達も、数ある不自由の中頑張っていることかと思えます。音楽はナマモノ、同じ空間に集まって仲間と一緒に沢山音楽を作り、互いから学びながら共に経験を積めることは非常に貴重です。せっかく留学出来る事になったのに、なかなか人に会えない、新しいコンタクトを作れない、プロジェクト参加が叶わない、というような歯痒い体験話も決して稀ではありません。私たち誰もが、本来思い描いたのとは違う様子に直面しているかもしれない。でも、このような時だからこそ、可能な限り、多くの人と心で寄り添い、人と人の繋がりを大事にすることが、私たちの近い未来への一番の糧になると信じています。Steket!

塚越 慎子 (マリリンバ)

1 昨年から続くコロナ禍により、海外での演奏はキャンセルが続いておりますが、国内のさまざまな地域にてコンサート活動をさせていたいただいております。特にアウトリーチコンサートでは、必ずアクティビティを入れ「与えるだけでなく引き出す」を motto に行っておりませんが、密を避けた内容が求められるので、今まで以上に工夫を凝らした内容で行っております。コンサートもさまざまな共演者との共演、そのたびに新たな刺激を受け、音楽の楽しさを再確認しております。今後も感染予防を徹底し、演奏活動に励みたいと考えております。

2009年度助成

盛田 麻央 (声楽)

1 昨年に引き続き、コロナ禍での演奏活動になりましたが、昨年はその中でも前向きに活動するため関係者が協力し合って作り上げていく舞台が多く、とても感謝しています。特に地方の公演も増え、いらして下さるお客様のお顔が私たちにパワーをくださいました。今年度は、より世界全体が音楽活動の幅を広げられ

るように願っています。

重島 清香 (声楽・ワイマル在)

早いものでドイツ・ワイマル国民劇場で迎えるシーズンも10シーズン目となりました。今シーズンの私にとつての目玉作品は、ヴェルディ作曲 オペラ「アイダ」のアムネリス役で出演することです。大変難しい悪役ですが、私なりに思いっきり演じられるように頑張りたいと思います。

金子 平 (クラリネット)

昨年の夏に所属しているアンサンブル、「東京六人組」の新しいCDを録音しました。今回は舞曲に焦点を当てて、ラ・ヴァルスやR・シュトラウスのオペラ「サロメ」より「七つのヴェールの踊り」などを収録しました。5つの木管楽器+ピアノの編曲で、オーケストラのようなダイナミックスは残しつつ、緊密なアンサンブルが感じられるよう心がけています。



2010年度助成

酒井 有彩 (ピアノ)

昨年はサントリーホールやザ・シンフォニーホールなど、大舞台でコンチェルトを演奏させていただきました。このような状況の中での舞台は、以前にも増して特別な瞬間となり、コンサートにお越しくださるお客さまから私自身が沢山のパワーをいただいていることを改めて感じました。今年も一つ一つの舞台を大切に精進して参ります。

2011年度助成

永井 基慎 (ピアノ・フランス在)

フランスは他の欧州諸国同様にワクチン接種により日常を取り戻しつつあり、昨年はサル・コルトー(仏)やウイグモアホール(英)等で演奏する機会があったほか、夏にはラトビア公共放送にてヴァイオリンとデュオでCD録音を行うなど、コロナ禍ながら充実した年を過ごすことができました。また、実際にお客様の前に演奏することが奏者にとっていかに幸せであるかを痛感する機会が多い年でもありました。今後も一つ一つの演奏機会を大切にしながら

活動したいと思います。

2012年度助成

竹下 裕美 (声楽)

コロナ禍で未だ大変な日々は続きますが、世界中の人達が命の大切さや、生きる事の意義を考えさせられた出来事でもあったと思います。私自身、公演等全て中止になるなど仕事面での影響は大きかったです。こんな事でへこたれてたまるかこんなにやるー！と、私生活を充実させる時間に費やしたり、これまで出来なかつた事をやってみたり等、前向きに動く事が出来たのは全て、留学中に学んだ経験を生かしたからでした。まだまだ油断は出来ないですが、医療従事者の皆様方への感謝を胸に、これからも一日を大切に過ごします。

増田 桃香 (ピアノ)

新しい環境で指導に携わっており、学生の時以上に学ぶことばかりの毎日です。演奏においても、より大胆にそして思慮深い表現を目指し、自己と向き合っています。次のリサイクルでは、恐れることなく、より挑戦的なプログラムで臨みたいと思いを新たにしています。

松本 絃佳 (ヴァイオリン)

2021年は、恩師である原田幸一郎先生、コハーン・イシュトヴァーンさん、タラス・デムチシンさん、を始めとする素晴らしい演奏家の方々と共演致しました。2022年1月〜4月は、赤松林太郎さん、梯剛之さん、ドミトリー・フェイギンさんと小金井 宮地楽器ホール大ホールや、やまと芸術文化ホールメインホール他での演奏会にて、シューマンのヴァイオリンソナタやストラヴィンスキーのイタリア組曲、ベートーヴェンの「大公」トリオ、などを演奏致します。慶應大学では生物学系の研究室に所属し、ヴァイオリン生演奏を介入する実験を行い、結果が出ています。YouTube (Hiroka Matsumoto Official) では過去の演奏動画を公開し、インスタグラム (@hirokamatsumoto) では近況報告をしています。SNSを活用し、充実したコンテンツを発信してまいります。今この瞬間に、自分が最大の努力をすることができているかどうかを自問し、改善を試みます。真摯に誠実に学び、自分の演奏を通じて、解釈の芸術を皆様に明確に提示することができるよう、日々努力を続けてまいります。

2013年度助成

谷垣 千沙 (声楽・ドイツ)

ドイツは2020年冬前から延長され続けるロックダウンの最中、2021年の春にバッハのプロダクシオンでコペンハーゲンのデンマーク王立劇場にてデビューいたしました。プレミエは無観客でしたが、その後の公演は沢山のお客様に恵まれました。総立ちのお客様の前に、Liveパフォーマンスに生きる者として公演に臨んだ皆が、まさにそのリオーピングに涙しました。この瞬間のことを生忘れません。

佐藤 彦大 (ピアノ)

コロナによる制限が緩和されはじめ、2021年は10月から本格的に演奏活動に復帰しました。演奏できる喜びを改めて実感し、感謝しております。オーケストラとの共演・リサイクル・室内楽・友人とのレコーディング等、充実しておりますが、大学での実技指導を通して私も学ぶことが多かったです。今後も成長を止めることなく頑張ります。

藤井 淳子 (チェロ・ベルリン在)

昨年、1昨年に引き続き、コロナ禍で未だ音楽活動が制限されている中、やっと少しずつですが公の場で披露する機会が増えてきました。昨年(2021年)の夏にはギリシャのキオス島の音楽フェスティバルにて、日本を含む様々な国の民謡の編曲を弦楽四重奏で演奏しました。もし今秋コロナが落ち着けば、このプログラムでカナダ、キューバにてコンサートツアーを行う予定です。

2014年度助成

熊田アルベルト彩乃 (声楽・ウイーン在)

オーストリアに住み始めてから2年も日本に帰らなかつたのは、今回が初めてです。この秋、状況が落ち着いていた間に、久しぶりにイタリアへ旅行しました。イタリアへは学部生の時に初めてヨーロッパ旅行をした以来、最近ほとんどコンクールやマスターコースなどでしか行っていなかったの、チンクエツレやトスカーナ、エルバ島など、観光地を気ままに回って、とても良い気分転換になりました。

浦山 瑠衣 (ピアノ・南カリフォルニア在)

コンサート活動が徐々に再開される中、今まで以上に人と人が創り出す生きた芸術に感動しています。と同時に、リモートワークが普及したお陰で遠くの生徒へレッスンができた、アメリカからヨーロッパの大学の授業を受講できたりと、この状況であったからこそ思い切った決断、働き方を発見できたことは大きな収穫です。



中川 日出鷹 (ファゴット)

去年の夏は、パリから憧れのアンサンブルであるアンサンブル・アンテルコンタンポランが来日し長年の夢である共演が叶いました。コロナ禍の厳しい状況でしたが奇跡的に公演が実現しました。マラーや指揮者であるマティヤス・ピンチャーの作品を数曲演奏いたしました。彼らとの久しぶりの再会も嬉しかったです。爬虫類の様なコントラバスクラリネット、急ブレーキをかけた時のタイヤの様なチェロ、月並みな言葉で表現できない何か蠢いてる感覚。宝物になりました。

2015年度助成

篠原 悠那

(ヴァイオリン)

21年3月桐朋学園大学大学院修士課程を修了、そしてカールテット・アマビレとして第22回ホテルオークラ音楽賞を受賞いたしました。貴財団にご支援を頂くことが決まり、夢だったヨーロッパでの留学生生活を始める事が出来、日本に戻って修士を取得、ご支援いただいたことに改めて感謝いたしております。今後とも一つ一つの演奏機会を大事に精進して参ります。



麻生 雄基

(テューバ・ドイツ在)

新型ウイルスの影響でなかなか試験を受ける事が出来ませんでした。2020年12月末に機会を得ることができ、晴れて国家演奏家資格を取得する事が出来ました。未だ大変な情勢が続きますが、更なる創造性と感性を磨きながら芸術家として成長出来るように今後も精進して参ります。2022年が皆様にとって、健やかで希望に溢れる1年となりますように、心よりお祈りしています。

2016年度助成

川口 成彦

(フォルテピアノ)

アムステルダム在

2021年11月13日にフランスのヴェリニエにて1855年頃のボワスロのピアノを使ってヴァイオリンのニコラ・ドートリクール氏と共に演じました。彼はモダン楽器で幅広く活躍しているアーティストですが、430のピッチで古楽器とのバランスも抜群の演奏のセンスが光り圧巻の演奏でした。ピッチの問題が無い限り、今回のようにモダン奏者との演奏会も面白いなと感じました。

上野 明子

(ヴァイオリン・ケルン在)

パンデミックから約2年が経過しますが、徐々に通常の生活に戻りつつあります。最近ソロに室内楽、オーケストラと幅広く勉強する機会を頂き、ロックダウン中だった生活と打って変わって毎日練習に明け暮れています。2月には修了リサイタルやプロコフィエフのヴァイオリン協奏曲を演奏予定で、学生生活の集大成なのではっきりと取り組もうと思えます。

2017年度助成

松原 みなみ

(声楽)

大学院を秋に修了し、博士号を取得しました。長い学生生活を終えて、これまで支えて下さった皆様への深い感謝、演奏家としてやつとスタートラインに立てたことへの高揚、そして少しの不安で背筋が伸びる思いです。今は、今早春に地元大阪で予定しているマラー『復活』、メンデルスゾーン『讃歌』の演奏会に向けて準備に励んでおります！

坪井 夏美

(ヴァイオリン・ベルリン在)

2021年4月から東京フィルを休団し、ベルリンフィルのカラヤンアカデミーに留学しております。ペトレンコ氏、メータ氏、バレンボイム氏など、画面越しにしか観たことがなかった指揮者の音楽を毎週のように直に浴び、団員の方々の表現・技術に触れる中で、少しずつ自分の出す音への欲が幅広くなってきたように感じています。榎本大進さんのレッスンや、アカデミー生のみで催されるコンサート等で学ぶこともとても多く、これからも更に研鑽を積み精進していきたいと思えます。

中島 諒

(サクソフォン・パリ在)

30周年誠におめでとうございます。前回の投稿から早いもので1年が経ちました。フランスも紅葉が始まり黄色や赤に色つき始めた景色は素晴らしいです。先日こちらでは、夏時間から冬時間に変更になりました。そうなりますと日本との時差は8時間になります。変更のタイミングは夜中の3時で、なんと1時間戻り2時になるのです。就寝していたので、その瞬間は見られなかったのですが、起床時に不思議とよく寝られた気分になりました。しかしその後時差ぼけのような感覚が2日ほど続きました。冬時間になった日からますます日が短く感じるので、今年も冬がやってきたのだと感じます。2021年は、ポルトガル警察の吹奏楽団と共演をさせていただいたり、作曲家の方さまさまざまな作品の新曲の演奏に携わる事ができたので、2022年も新たな発見がある素敵な年になりたいです。

2018年度助成

高橋 維

(声楽・ウィーン在)

2021年は、兵庫県立芸術文化センター『メリー・ウィドウ』ヴァランシエンヌ役、

東京二期会『魔笛』夜の女王役、同『こうもり』アデーレ役と、オペラへの出演が続きました。オペレッタやドイツ語の作品に多く携わることができ、ウィーンでの研修経験を生かすことができました。

2022年は、NHKニューイヤーパーラコンサートに始まり、日生劇場『ランメルモールのルチア』題名役などを予定しており、更なる飛躍を目指して邁進していきたいと思えます。

仁田原 祐

(ピアノ・ザルツブルク在)

2020年10月からザルツブルク・モーツアルテウム大でコレペティとして教鞭をとりながら、ソロ、室内楽のコンサート活動を行なっています。試行錯誤しながらの日々でしたが、2年目を迎える学ぶことの多い充実した毎日です。夏には日本に帰国してコンサートの機会もあり、これからヨーロッパを拠点に、更に演奏、教育活動に励んでいければと思っております。

小林 恵成

(ヴァイオリン)

2021年9月より東京交響楽団のコンサートマスターに就任致しました。奨学金が無ければ留学を実現できなかった私が、クラシック音楽

の本場での体験、偉大な作曲家達が歩いた、教えた、弾いていた建物や風景、環境に身を置き、肌で感じ取る経験ができたのは明治安田QOL文化財団様の奨学金のおかげであり、この上ない財産です。これからはコンサートマスターとしても、留学で得た経験を活かしつつ、精進したいと思っております。

岡本 誠司

(ヴァイオリン・ベルリン在)

2021年9月に第70回ミュンヘンARD国際コンクールのヴァイオリン部門(4年に1度)にて、第1位と委嘱新曲賞など複数の賞を受賞しました。留学先のドイツで最も歴史と権威あるコンクールでの受賞は非常に嬉しいものでしたが、演奏表現を更に深く追究し活動の場も増やせるよう、今まで以上の努力を続けてまいります。

2019年度助成

山田 花織
(声楽・ミラノ在)

2年間のミラノでの研修を終えるタイミングで、伝統のあるロドルフォ・チェッレツティ、ベルカントアカデミーに合格し、南イタリアのマルティーナフランカに滞在しております。およそ3ヶ月に渡

り、著名な素晴らしい教師陣のレッスンを受ける事ができ、更にはコンサート有機會にも多く恵まれて、非常に充実した経験をさせていただいております。この研修後には、イタリアの地で培ったものを糧に、活動拠点をドイツへと移し、音楽家として更なるキャリアアップのため精進して参りたいと思っております。

秋元 孝介

(ピアノ・ベルリン在)

様々な制限のある世の中から、警戒しつつも少しずつ解放され、以前のようにお客様を前にして音楽を共有できることは何よりの喜びです。今年3月16日に紀尾井ホールレジデントシリーズに葵トリオとして出演させて頂くほか、ピアノコンチェルト、ソロリサイタルなどが待っています。いずれも真摯に作品に向き合いたいと思っております。

小川 恭子

(ヴァイオリン)

コロナ禍でもどかしい日々が続いた2021年、母校の桐朋学園ではホールが完成し祝福ムードに包まれました。秋からはオーブニング記念コンサートシリーズが始まり、その幕開けの場に光栄にも出演させて頂きました。指揮の

秋山和慶先生、桐朋学園オーケストラと共に新ホールの温かな響きを感じながら演奏できた事は大変感動的で、とても思い出深いコンサートとなったと同時に、今後の活動への意欲が更に高まりました。

田原 綾子

(ヴァイオリン・デトモルト在)

デトモルトになかなか行けない日々が続いていますが、日本で武生国際音楽祭やクラシック・キャラバンなど、素晴らしい音楽家の方々と一緒に、多くの貴重な経験をさせて頂いていただいています。今出来ることに最大限取り組み、恵まれた環境で勉強できていることに心から感謝しながら、残りの留学生活もしっかり学んでいきたいです！

2020年度助成

荒井 優利奈

(ヴァイオリン・ウィーン在)

昨年はコロナ禍で制限がありながらもコンツェルトの本番やリサイタルなど演奏活動を再開することが出来、より一層音楽の素晴らしさや舞台で演奏させていただけるありがたみを実感しました。ワクチン接種が進み、私の留学先であるウィーンでも日常に戻ってきたように感じます。

未だ日本とヨーロッパの往復は以前のように簡単にはいきませんが、前向きに今自分出来ることを出来る形で取り組んでいきたいと思っております。

2021年度助成

谷口 知聡

(ピアノ・パリ在)

フランスで生活を始めて2ヶ月が経ち、本当に恵まれた環境で勉強させて頂いていることが未だ信じられず、貴重な機会を与えて頂きましたことに心より感謝申し上げます。早速代役として学内の新作演奏会でアンサンブル・アンテルコンタンポランの方々と御一緒する機会を頂き、夢のようなお話にハラハラしながら取り組んでおります。貴財団の助成事業が30周年を迎えられ、海外音楽研修生として勉強させて頂いていることに大変気の引き締まる思いです。沢山のことを吸収しながら糧にするべく本年も一心に精進してまいります。

冬ゼメスターが始まる直前に、ボンを初めて訪れました。ドイツが東西で分断されていた時代の首都で様々な歴史を持つ都市ですが、音楽を学ぶ者にはベートーヴェン生誕の

阪田 知樹

(ピアノ・ハノーファー在)

地として大きな意味を持ちます。生家を訪ねたり、目下勉強中のシューマン幻想曲が作曲される一因にもなった記念碑を拝んだりと実り多い時間となりました。

太田 糸音

(ピアノ・ベルリン在)

留学生活が始まり、充実した日々を過ごしています。大学でのレッスンはデイスタンスを保って対面で受けており、ピエール・ブーレーズザールやフィルハーモニーなどといった演奏会ではf f p 2マスを着用しワクチンパスを提示して、入場しています。制限がある中ではありますが勉強できる喜びを大切に、真摯に向き合っております。

北田 千尋

(ヴァイオリン・ブリュッセル在)

ブリュッセル留学初日から間違えてアントワープまで行ってしまったりと既に数えきれないほどのエピソード満載の大冒険が始まりました。自然、建物、言語、歴史など、日本では感じることでできない様々なことに触れ日々感動しています。この美しい土地でこれから益々沢山のことを吸収し音楽の表現を更に磨きたいと思っております。

